

唐人町界隈の同年の友ら

～昭和34年頃の明細地図から思い出すこと～

7組 山本 哲照

私の手元に1枚の地図のコピーがあります。表題は「NO 17 万年2丁目付近（万年1. 2. 3. 4丁目、新玉1丁目）となっています。

これは昭和30年代初期に（株）明細地図社から発行された「小田原市明細地図」（東部版、西部版）に収録されているもののコピーです。当時としてはかなり大判（B4判）のページ建てでした。地図と言っても私たちが普通にイメージするような山、川、湖、海、森、林などを地形通りに正確に表示するものではなく、事務所、事業所、集合住宅、居住者名などを表示したものです。郵便配達や運送業者などには大変ありがたい地図でした。昭和35年～39年まで私は大学生でした。母子家庭だったので学費を稼ぐためにアルバイトに明け暮れる毎日でしたが、一番長く続いたのが当時小田原駅前にできた「箱根登山デパート」でのアルバイトでした。配送の仕事にこの「明細地図」が大いに役に立ちました。手元にあるコピーは昭和34年現在の小田原市万年2丁目付近の事業所や集合住宅、個人住宅などが詳細に表示されています。当時私が住んでいた生家もはっきり「山本」と言う名字で記されています。下記に一部をコピーして掲載します。

（私の知識と技能の拙さから文字が小さく、ご覧いただいている方にはご迷惑をおかけして恐縮です。どうか拡大機能を使って拡大してお読みください。）

北村透谷碑と近所のお姉さん「アッちゃん」

「山本」の家の前に「増井」と言う家があり、その土地の左上の部分を黒く塗りつぶして「1」と表記した辺りに以前は「北村透谷生誕之地」と書かれた石碑がありました。この石碑は現在は国道1号線に面した場所に移されました。この図では「小島材木店」と表記された土地の左上の黒点のあたりです。「2」と表記しました。私の幼い時の遊び場はこの透谷碑の辺りでした。小島材木店には女児が4人、男児が二人いてそれに近所の悪ガキが数人加わり、広い土地に大きな倉庫がいくつもあり、所狭しと置かれた材木に乗ったり隠れたりして日が暮れるまで遊びました。ちょっと脱線しますが小島材木店の女児は皆私よりも年上の美人で「ミス小田原」に姉妹で選ばれていました。私は2歳年上の四女「アッちゃん」が大好きでよく可愛がってもらいました。

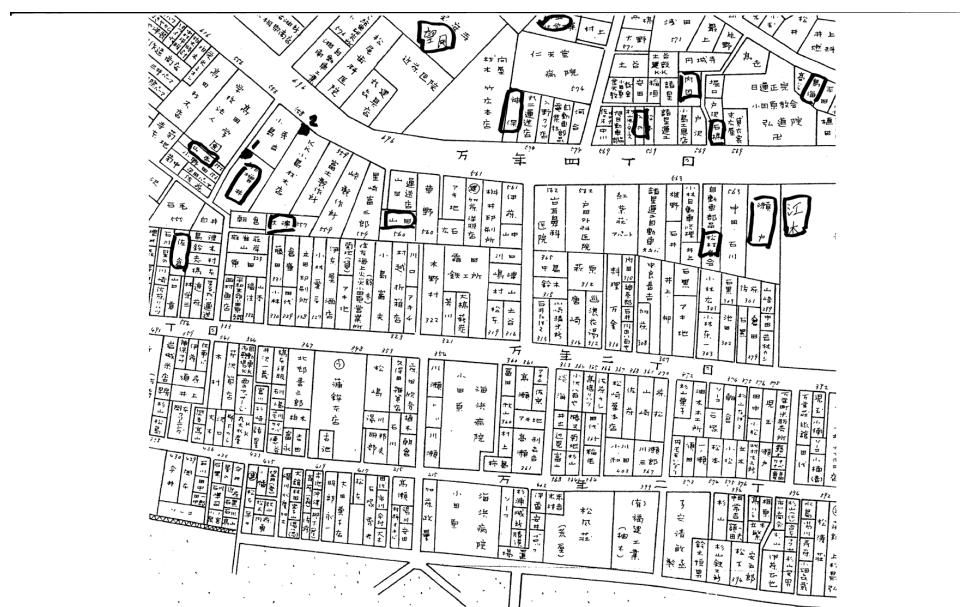
小田高に進学したのは7人の男児

この地図には私の生家を含めて当地の旧町名「唐人町」界隈の同年代の旧友たちの姓がほとんど記載されています。どういうわけか3人の同級生の家の表示がありません。これが作成された昭和34年には或いは既に転居されていたの

かもしれません・・(但し、江木君の家ははっきりしているので私が手書きで記入) この地区は小田原市の第19区で地区の子供会の名称は「朝日子供会」でした。私と同学年の児童は男児14名、女児1名合計15名いました。小田高に進学したのは石橋佳辰、入野卓彦、内田晶二郎、江木紀彦、神保武司、瀬戸隆之、山本哲照の男児7名。女児は城内高へ進学しました。但し小田高に進学した者たち瀬戸君は病気で休学、1年遅れて卒業したので11期生の中に彼の名前はありません。

近接地区の二人の同級生

また、唐人町ではありませんが隣接地区に私が殊に親しくしていた友の家が2軒ありました。望月郁文君と佐倉久隆君です。上の地図でそれら同学年の人々の生家を四角で囲って表示しました。私の生家は左上の「学校法人高田学園」と書かれた家のすぐ下に「山本」という表示があります。望月君の家は図の上部(北部)左に手書きで記入。佐倉君の家は私の家の下方(南方)にあります。但し、佐倉君は学区が違っていたので子供会も違い、幼い頃には全く接点はありませんでしたので、お互いに相手の事は知らなかったのです。彼と親しくなったのはお互いに一浪して東京神田の中央大学に進学してからです。ですからこの稿では佐倉君に触れる事はありません。望月君は朝日子供会の仲間としての接点はありませんが城内小では6年間同じクラスでした。小学校就学前の保育所でも2、3年間は一緒でしたから幼友達だったことは確かです。4、5歳の頃からお互いの家に行き来してよく遊んでいました。



下の表は唐人町の15人の同年の友と隣接地区の2名の友の名前と進路などを記したものです。

No	氏名	小田高	子供会	6年4組	中大	消息不明	物故者	備考
1	石橋 佳辰	○	○				○	後に庄野
2	入野 卓彦	○	○		○		○	
3	内田 晶二郎	○	○				○	
4	江木 紀彦	○	○	○				
5	大津 典明		○			○		
6	神保 武司	○	○		○		○	
7	瀬戸 隆之	○	○				○	1年休学
8	鳥海 洪介		○					
9	山田 芳代		○	○		○		後に中島
10	服部 昌尚		○			○		後に堀口
11	藤並 師夫		○	○			○	
12	本多 和矩		○	○		○		
13	増井 俊美		○				○	
14	松村 辰雄		○				○	
15	山本 哲照	○	○	○	○			
16	望月 郁文	○		○			○	宝安寺
17	佐倉 久隆	○			○		○	本町小
合 計		9	15	6	4	4	10	

1番から15番までが唐人町の朝日子供会のメンバーで、16番の望月君は隣接地区、17番の佐倉君は他学区（本町小学校）です。望月君の家は地図の上部（北）に「宝安寺」と記された所です。「望月」と表記しました。佐倉君の家は「山本」の下方（南）に「佐倉」と記されています。2024年8月16日に佐倉君への追悼文を寄稿しましたが、その中で私と彼の生家が至近距離にあったと述べました。地図をご覧になればそのことを実感していただけるでしょう。

6人が城内小6年生時同じクラスに

上表のうち望月君を加えた6人が城内小学校6年生の時に同じ4組で机を並べました。ただ一人の女児山田芳代さんもこのクラスでした。このクラスは今まで何回もクラス会を開催してきました。江木、望月、山田、山本の4名は毎回必ず出席していましたが、藤並師夫君と本多和矩君の2名はいつも欠席でした。クラス会の幹事だった私は所在不明の友人の事をネットで調べていた時、「小田原」「本多和矩」と言うキーワードで検索した時ヒットしました。2009年の事なので記憶があいまいですが、確か「小田原」出身の「本多和矩」と言う画家が鎌倉に居住していたのです。その画家の所属する団体に電話して事情を話し、その

画家が私の探している小学校時代の友人であるかどうか聞きました。電話に応対した方は生年や生誕地などから本人だろうということでした。私が身分を名乗り電話番号も伝えて「本多さんが了承してくれたら私に電話するようにお伝えください」とお願いし、その方も「確かにお伝えします」と約束してくれましたが本多画家からの電話はありませんでした。その事を江木君に話すと「本多君は絵が好きで上手だったから多分本人に間違いないよ。そうか、画家になったのか」と言っていました。

現在連絡可能者は二人だけ・・

上表の私の同学年の幼友達16人のうち「物故者」にも「消息不明者」にも入っていない、連絡先のはっきりわかっている者は江木紀彦君と鳥海洪介君の二人だけになってしまいました。江木君は朝日子供会と城内小で4~6年生の時に同じクラスで、共にクラス会の幹事としてずっと連絡を取り合って來たので住居は離れていても連絡はすぐに取れます。鳥海洪介君に関しては実は城山中学校を卒業して以来、お互いに全く没交渉でした。彼の生家は地図の上部(北部)の再右端に記されています。確か4人兄弟の3男で長兄が一丁田商店街で「鳥海商店」というジーンズの専門店を経営していました。私たちの青春時代はまだジーンズは珍しかったので同期諸兄姉は「鳥海商店」を懐かしく思い出す方もおられるでしょう。この店もかなり前に閉店したし、鳥海君がその後どういう人生を送られたのか全く知る由もありませんでした。しかし、5年ほど前に全く偶然の出会いから彼の消息を知ることができました。

優しい女性職員が幼友達の義理の姪御さんだった！

一人暮らしに不安を感じた私がサービス付き高齢向け住宅「ライブリーハウス中銀小田原」に入居したのは2021年4月でした。こういう施設での共同生活に戸惑っている私を気遣って何かと声を掛けてくれる女性職員がいました。お名前が「鳥海」さん。一丁田商店街「鳥海商店」の息子さんの配偶者でした。私の幼友達洪介君は義理の叔父さんに当たることが分かりました。この女性を通じて鳥海洪介君は小田原市内で息災にしておられることが分かりました。つまり私の唐人町の幼友達で生存がはっきりしているのは江木紀彦君と鳥海洪介君それに私山本哲照の3人だけと言うことになりました。消息が分からぬ4名の友たちも息災でいてくれることを祈りつつ、擱筆とさせていただきます。

補足 私は既に鬼籍に入った友3名にこのサイトで追悼文を掲載して頂きました。下記の3件です。よろしかったら併せてお読みください。

2021年12月12日 竹馬の友・望月郁文君の思い出

2024年8月17日 佐倉久隆君を悼む

2025年10月16日 追悼・入野卓彦君



現在の「北村透谷生誕之地」石碑



閉店した「鳥海書店」

(完)